国際ロータリー第2770地区第10グループ

三郷中央ロータリークラブ

週　報

会長　伊藤　隆　　　幹事　浜田一夫

□第1017号　2011年12月6日　発行
□例会場　KTTレンタホール35
□今回内容　健康卓話
□本日のSAA　片野秀臣・加藤地次会員
□会報・IT委員会　委員長　谷津茂男
田中欣一（副）・宮田博・浅賀紀一
□事務局　〒341-0022　三郷市大広戸733
TEL 048-953-7711・FAX 048-953-7070

三郷の三愛会総合病院　院長　清水弘文様をはじめとして、須山太助先生にも前立腺についての健康卓話をしていただきました。

●会長挨拶　伊藤会長

皆さんこんばんは。本日は三愛会総合病院の泌尿器科の専門医であります清水弘文院長、須山太助先生、眼科の加賀先生に来訪いただき、健康卓話をお願いします

先月の24日から中国山東省の済南に研修生の採用に行ってきました。4年前は1,000元の給料でしたが、今は1,700元になってます。今回も2名採用してきました。

三郷市体育協会より、50周年を記念して感謝状が届いています。

○●委員会報告事項●○

ロータリ財団委員会　原口委員長

伊藤会長に財団よりポールハリスフェローピンが届いていますので、授与します。9,000ドルです。

親睦委員会　加藤英泉委員長

１２月１８日の八芳園でのクリスマス例会は現在34名の参加予定ですが、50名にしたいので、お孫さんたちを誘ってください。

◇◆健康卓話◆◇

三愛会総合病院　清水弘文院長

「前立腺肥大症　診断と治療」

○前立腺とは

- 栗の実状の形態を取る臓器で膀胱頚部から存在
- ほぼ中央を尿道が貫通
- 精子、精嚢腺液とともに精液を構成
- 機能や形態は男性ホルモン（テストステロン）により維持調節される
- 青年期に大きさはピークとなり、重量は約20g前後に
- 前立腺肥大結節により、中年以降再度増大する人が出現

○病因

- 男性ホルモンの関与はあるだろう
  思春期前後では去勢されたものでは肥大症はほとんど見られない
  一旦形成された腺腫も去勢によって退縮する
  肥大症組織には高濃度のDHTが存在する
- ただし男性ホルモンのみでは発症を説明できない事実も
  男性ホルモン投与で肥大症をつくることに成功した（イヌ）が、同時に女性ホルモンの投与が必要であった
- まだまだ病因についての状況は変わりつつあります

ホームページ　http://www.misatochuo-rc.com

○病理

発生母地は尿道周囲腺。徐々に成熟した肥大結節へと進展する。
その結節性増殖が融合し腺腫を形成し尿道を閉塞

【頻度】‥前立腺肥大結節

40歳代：約20%
50歳代：約40%
60歳代：約70%
70歳代：約80%

【疫学】

東洋人は白人や黒人に比べて頻度は低い

【臨床症状】‥第一病期（刺激期）

頻尿（とくに夜間）

前立腺部尿道の閉塞により膀胱排尿筋の緊張が亢進するために生じる。

【臨床症状】‥第二病期（残尿発生期）

尿線細小化
排尿開始の遅延
排尿時間の延長

【臨床症状】‥第三病期（尿閉期）

滴状排尿
溢流性尿失禁
頻尿
完全尿閉

◇留意点

・高齢男性に見られるとは限らない
・尿排出生涯は前立腺肥大症に特有のものではない
・前立腺の大きさに、必ずしも症状は比例しない
・排尿障害を副作用に持つ薬剤が多数有る
・閉塞症状とは限らない
・頻尿はほんとに？

◇排尿障害を起こす可能性のある薬剤

・総合感冒薬
・気管支拡張薬
・抗鬱薬
・抗ヒスタミン薬
・抗コリン薬
・その他、麻薬、睡眠薬、抗不安薬、抗てんかん薬等

◇臨床症状を悪化させる要因

・飲酒
・長時間の座位
・便秘
・寒冷刺激
・疲労
・内服薬（風邪薬・抗精神病薬・抗潰瘍薬等）

◇検査方法

・超音波検査
・尿流量測定
・血中PSA値測定
・検尿
・直腸診
・画像検査
・膀胱鏡検査

◆実際には

問診・検尿・超音波検査・PSA値・直腸診で治療を開始

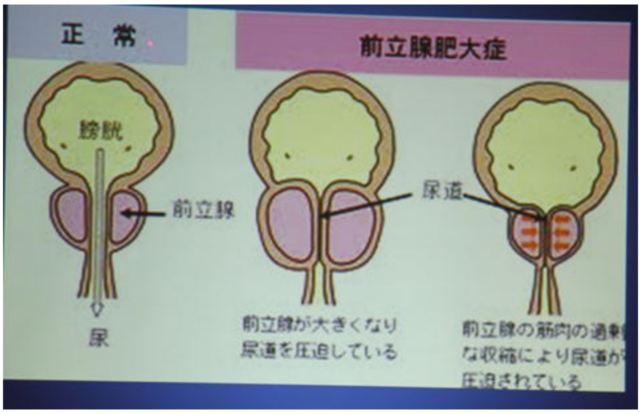
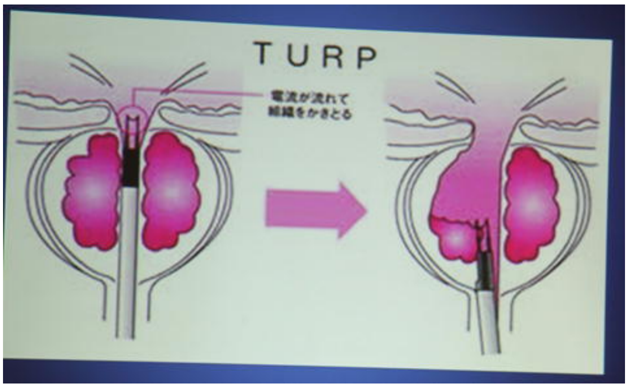
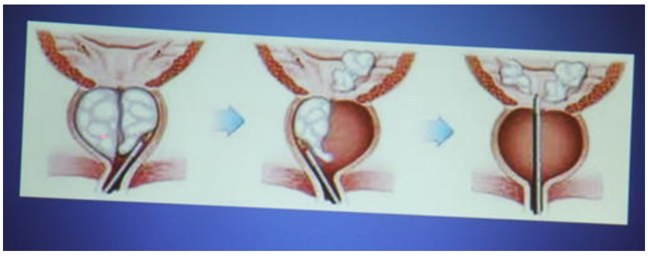
「治療」

A内科的治療法

・非ホルモン治療薬
　・a−ブロッカー
　・その他　植物エキス製剤
ホルモン治療薬
　抗アンドロゲン等

B 外科的治療法

・開腹手術
・内視鏡手術
・レーザ治療

C その他

・温熱療法
・カテーテル留置
・尿道ステント等